

【独居老人宅除雪】

①春光台地区で暮らしている高齢者の方のお宅に出掛け、除雪を行う取り組みです。地区社協と協力して取り組んでいます。

【陶芸教室】

①施設で行っている陶芸活動を地域の人に体験してもらえるよう、学校等の休みにあわせて行う取り組みです。地域の子供が参加し作品作りをしてもらいました。

【小平町の協力のもと特産品の開発】

①小平町での黒毛和牛導入に伴い、牛肉を使った商品開発を依頼され取組を開始

②以前、小平町特産品加工開発施設（現在廃止）の委託を受けた際に、小平町で導入した黒毛和牛の肉を地元の特産品として有効利用するために試作をはじめ、現在は「ほっぴ すてっぴ」の授産作業として位置づき、黒毛和牛のハンバーグ・カレー・シチュー等として商品販売している。

【無料送迎サービス】

①障害者支援施設において、生活介護、短期入所利用者のうち、送迎を希望される方への無料送迎の実施

②施設立地地域は公共の交通機関が充実しておらず、施設の利用は自家用車に限定されていた為、自家用車を所有されていない家庭でも利用できるよう実施した。

【災害時における取組み】

①災害時における指定緊急避難場所としての使用に関して、町と協定を締結している。

【社会貢献推進委員会】

①1.法人独自事業

- 1) こども交通安全サポーター事業（植苗小中学校登校時間）月1回
出退勤道路の為、生徒の安全、挨拶の励行と職員の安全運転における啓蒙活動
- 2) デイサービスの無料体験事業（H24.8～現在）随時
介護保険適用外の包括や市福祉課からの依頼や介護保険対象者における無料体験
- 3) 緊急ホルダー配布事業（高齢者行方不明防止事業）（H27.2～現在）
高齢者が行方不明になった際の氏名連絡先をキーホルダーにて登録して、早期の発見に繋げる
- 4) 学齢障害児を対象としたリハビリ支援（サポートセンター）（H28.12～）
学齢障害児を対象としたリハビリの利用が手薄なため、PT等における療育指導を実施
- 5) 学齢障害児利用のデイの職員、特学の教員等を対象とした研修会の実施
PT等によるリハビリの方法等を理解し、身体的機能の発達支援
- 6) はつらつ教室（介護予防）の開催（沼ノ端地区）月2回（H29.4～）
19名登録、送迎あり体操等予防教室
市におけるはつらつ教室が廃止になった為、利用継続を実施していく為
- 7) サポートセンター（障害者総合相談事業所）の地域無料開放事業（双葉町）
地域等の集会等の利用における地域への開放
- 8) 高齢者総合相談事業
市内における高齢者及び家族の相談を受けるための相談室の開設

2.保護司会からの要請

- 1) 刑務所出所者ボランティアの受入れ事業（H27年度～）
保護観察者のボランティアを通じて社会参加における規範意識を高め
ていく

3.公的事業

1)利用者負担減免制度

平成 28 年度実績

(陽明園関係 5,489,111 円 (入所 20 名内生保 3 名他 SS 延 16 名内生保 7 名、デイ、訪問)東胆振 6,408,241 円、計 11,897,352 円)
低所得者への介護福祉サービスの利用

4.苫小牧市の事業委託

1)障害者総合相談事業 (知的、精神、身体、児童他)

障害児者の相談受付拠点の設置

2)苫小牧市 SOS 認知症不明者協力事業 (公用携帯 134 台登録)平成 29 年度 5 回の配信あり

高齢者の行方不明情報の配信を受けて、職員等による早期発見の協力

3)認知症カフェ陽明園 (勇払地区)、ナイスデいやなぎ (やなぎ町地区) (H26.6~)

引きこもり及び介護保険適用外の方を含めたコミュニケーションの場の提供

5.市社協の委託事業

1)独居高齢者における鍵預かり事業 (陽明園)

独居高齢者の状況確認の依頼

2)配食サービスの実施 (陽明園・永光)

高齢者を対象とした夕食の配食サービス

6.広報活動

1)法人ホームページにおける掲載

②社会福祉法改正における貢献事業の責務として委員会の設置

法人内に社会貢献推進委員会を設置し、企画運営を定期的実施している

【函館市避難所】

①非常災害の発生時において、函館市よりの指示を受けて避難所を開設し、地域住民を保護することを目的としています。

当施設は、平成 20 年 3 月に「函館市一時避難所（津波災害は対象外）」として登録をし、平成 25 年 2 月に「函館市津波避難計画」が正式決定されたことに伴い、函館市からの要請を受け、平成 25 年 3 月より「避難所」として登録しました。

さらに、平成 25 年 6 月に「災害対策基本法」の改正により「指定緊急避難所（原則 24 時間）」および「指定避難所（原則 7 日間）」に登録されることとなり、平成 27 年 11 月 26 日、函館市との協定を締結し、現在に至っています。

②平成 20 年 4 月に当施設が移転・新築した敷地については、以前から非常災害発生時の避難場所として函館市からの指定を受けておりました。そこで、当施設整備事業に併せ設置した「地域交流スペース」を避難住民の受け入れ場所として活用することで、平素の地域交流（福祉）活動の拠点施設としてばかりではなく、非常災害発生時の地域防災の拠点施設としても大いに地域貢献が出来るものと考えました。

移転先の町会長からも「町内に 2 箇所ある避難所のうち、1 箇所は極めて海拔の低い位置の町会館であるため、津波発生時にはもう 1 箇所の高台（当施設移転敷地）への避難を想定している地域事情がある。地域交流スペースが住民の身体・生命を守るための避難所としての役割を果たすことを強く希望する。」との要請を受け、函館市との協議の結果「一時避難所」として登録されることとなりました。

これまでの避難所開設実績は、平成 22 年 2 月 28 日「南米チリ大地震に伴う津波（避難勧告）」の際に住民 1 名・避難車両多数、平成 23 年 3 月 11 日「東日本大地震に伴う津波（避難指示）」の際には住民 13 名・避難車両多数、平成 28 年 8 月 22 日「台風 9 号の接近に伴う土砂災害の恐れ（避難準備情報）」の際には住民 3 名を保護しました。

3 回の実績についてはいずれも函館市からの開設指示はなかったものの、住民からの強い要望や町会長からの要請に応え、人道的な見地から開設したものではありませんが、地域の住民との信頼関係が次第に築かれていることから、地域に対して少なからず貢献ができていると考えています。

【むろげんボランティアの会】

①「むろげんボランティアの会」というボランティア組織を立ち上げました。その目的のひとつは、ボランティアの育成です。ボランティアの方々に、定期的に活動していただく中で、児童福祉施設や障がいを持つ方への理解を深めていただきたいと思います。実際に子どもたち・利用者の方たちと関わっていただくだけでなく、学習会の開催、法人の研修会にも参加する等の機会を設けています。もうひとつの目的として入所児童・利用者の方たちに、より充実した余暇を過ごして頂くために土曜・日曜・祝日等の主に外出時の付添いや行事の付添い等で活躍していただいています。

②休日には外出する機会が多く、利用者の方の中には外出時に付添いが必要な方が多くいらっしゃいます。ボランティアの方に来ていただくことで、利用者の方の付添いが充実します。初めは、障がいがある方々との経験がない自分がボランティアを出来るのだろうかと心配される方もいらっしゃいましたが、少しずつ慣れて子どもたちのことや利用者の方の障がいを理解したいと努力してくださっています。

【資源再活用事業】

①資源再活用事業は法人事業所で集めた、リングプルやペットボトルキャップ、使用済み切手などを活用して購入した物品などを地域の小学校などの団体へ寄附することを目的にした活動です。こちらの事業は立ち上げ段階ですので活動実績はございません。

【エンルムハイツ地域人材活用事業（介護パートナー事業）】

①地域に住まわれている主婦やシニア世代を対象に、介護パートナー事業をセカンドライフややりがい・健康増進を目的として、補助事業終了後もエンルムハイツの独自事業として事業を継続して、2名の方を継続雇用しています。

雇用については、職員の配置定数外の週2日～5日の勤務とし、介護職員の補助（掃除、洗濯、ベッドメイキング等）で、介護の仕事からお互いに支えあう地域づくりと就労の機会を提供しています。

②北海道の補助事業「地域人材活用事業」を平成29年に実施して8名の事業参加をいただき、平成29年10月～平成30年1月に実施して終了しましたが、その後についてもエンルムハイツの独自の事業として2名を継続雇用して、地域の雇用と地域の支え合いに参加しています。

雇用に関わる経費負担については、施設で全額自己負担しています。（今後も継続雇用予定）

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

北見市

【地域住民等との連携による単身高齢者生活支援（外窓拭き）】

①単身高齢者宅で最も要望の強い外窓拭きを地域住民のボランティア参加を得て実施～地域の支え合い・見守りの強化へ

②平成 18 年度に常呂自治区で取り組み開始。地域住民、高校生等を巻き込んだ新たなボランティア活動として企画。事業名称は「孫の手届け隊」。その後、北見自治区北部包括エリアで住民による新たな支え合い活動とボランティア活動のコラボとして取り組み開始。事業名称は「思いやり届け隊」

【結婚相談所の運営】

①晩婚化や生涯未婚率が高まる中、福祉の基盤は家庭にあるとの考えに立って、パートナーを求める方への相談所を開設

②昭和 44 年度に福祉的結婚相談所として開設。これまで 628 組が成婚。ボランティアが相談員として活動している。

【アート活動支援室「ぴかり」】

①アート活動支援室「ぴかり」の活動

利用者が描いたアート作品を作品展等に出展して社会に参加し、社会と繋がる機会を提供する取り組みです。

（活動例）

- ・地域の銀行やサロン等にアート作品を定期的に展示し、一般の方々に楽しんでもらう。
- ・公募展には道内外に参加
- ・作家として美術館等で紹介された人もいる。

②アート作品やグッズについてはパンフレットや広報誌、ホームページやSNSを通して情報を発信。利用者が楽しんでいることは勿論ですが、アート作品やグッズのファンが増えてきている。

【ミュージックサークル「ハモロ」】

①ミュージックサークル「ハモロ」の活動

音楽が好きな利用者を中心に音楽活動のサークルを結成。各地のイベント等に参加して地域の方々に音楽を楽しんでもらう取り組みです。

（活動例）

- ・トーンチャイム等の演奏で地域のイベントや演芸会等に出演。
- ・地域の高等学校との交流イベントに参加。
- ・他法人のイベントへの出演や、町の社会福祉協議会事業との連携。

②施設の行事で行ったビデオ紹介を見て出演の打診があったり、参加した方から直接園に出演オファーがあったり、活動の輪が広がりつつある。